

平成30年度

# 事業報告

社会福祉法人 大洋会

児童養護施設 大洋学園

# 平成 30 年度大洋学園運営報告

## 《施設の概要》

### ・名称及び所在地

「大洋学園」 〒022-0006 岩手県大船渡市立根町字下欠 125 番地 15

Tel 0192(26)2714 Fax 0192(26)2771 Email taiyogakuen@taiyokai.or.jp

### ・施設の種別

児童養護施設

### ・設置主体

社会福祉法人大洋会

### ・概要

定員：46 名（暫定 45 名）

[本体施設：大洋学園（40 名）]

施設規模：敷地面積 4,940 m<sup>2</sup> 床面積 1,288.16 m<sup>2</sup>（鉄筋コンクリート造 2 階建て）

施設内容：事務室 湯沸室 印刷室 職員室 宿直室 静養室 医務室 男子・女子・職員・調理員便所 調理室 食品倉庫 調理員休憩室 ホーム 5 図書室 ユニットケア 4 自活訓練室 居室 3 リネン室 1 男女浴室 機械室 多目的ホール 心理棟 屋外倉庫

[地域小規模児童養護施設：若葉ホーム（6 名：本体施設定員外）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町字轆轤石 69 番地 13 号

施設規模：木造 2 階建て 床面積 99.74 m<sup>2</sup>

[小規模グループケア：さくらホーム（6 名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町長谷堂 61 番地 28

施設規模：木造 2 階建て 床面積 167.92 m<sup>2</sup>

[小規模グループケア：つばさホーム（6 名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市立根町字下欠 125 番地 15

施設規模：木造二階建て 床面積 140 m<sup>2</sup>

### ・目的

乳児を除いて保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。

### ・沿革

昭和 30 年 3 月 29 日 大洋学園開園（大船渡町字明神前 33）

昭和 42 年 3 月 28 日 大洋学園園舎移転（猪川町字久名畑 120 番地 3）

昭和 51 年 4 月 29 日 宮内庁より御下賜金拝受

昭和 60 年 5 月 12 日 大洋会・大洋学園 30 周年記念式典

平成 4 年 3 月 22 日 大洋学園現園舎へ移転

平成 15 年 10 月 1 日 地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」事業開始（前田 16 番地 15 号）

平成 16 年 5 月 8 日 大洋会・大洋学園 50 周年記念式典

平成 16 年 11 月 1 日 小規模グループケア「さくらホーム」事業開始（藤沢口 50）

平成 20 年 4 月 15 日 園舎拡張（つばさホーム・心理棟）・改修（ひまわり G ホール）工事竣工

平成 23 年 1 月 20 日 園舎一部ユニットケア化改修工事竣工

平成 23 年 2 月 11 日 本園一部ユニットケア開始（希望・飛翔ホーム）

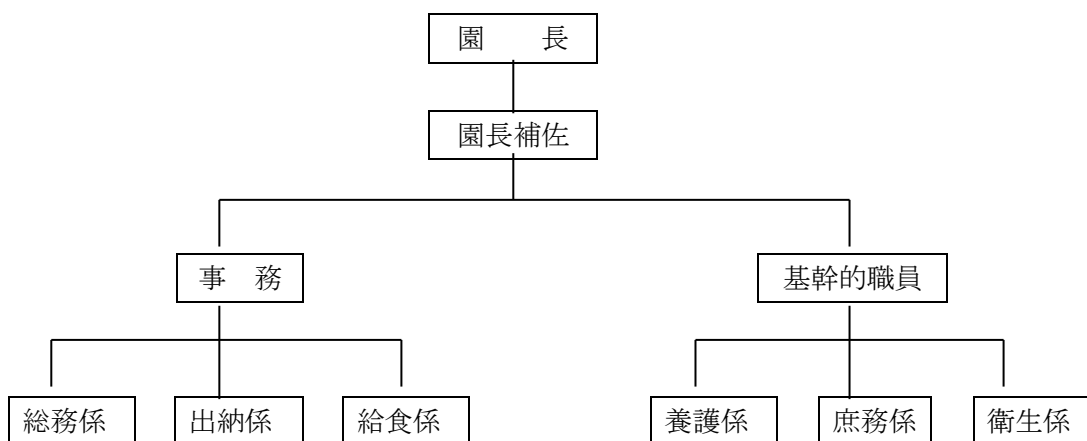
平成 23 年 3 月 11 日（14:46） 東日本大震災発生

平成 23 年 9 月 3 日 小規模グループケア「さくらホーム」新家屋を購入し、猪川町字藤沢口 50 から猪川町字轆轤石 69 番地 13 号に移転

平成 25 年 5 月 18 日 「光輝ホーム」「ひまわりホーム」ユニット化改修工事竣工、全面ユニットケアに移行

平成 30 年 4 月 1 日 猪川町長谷堂 61 番地 28 に新家屋を購入修繕し、小規模グループケア「さくらホーム」として利用開始。猪川町字轆轤石 69 番地 13 号の旧「さくらホーム」は地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」に種別変更。

《組織図》



児童養護施設大洋学園本体					
園長	中村 浩行	補佐（基幹的職員）	金野 祐樹	個別対応職員	今野 里美
家庭支援専門相談員	千葉はるか	家庭支援専門相談員	大和田雄介	心理療法士	柿崎輪夏菜
児童指導員兼栄養士	鈴木 茜	児童指導員（里親担当）	志田真理子	事務員	千葉 智江
				嘱託医	大津 定子
光輝ホーム		希望ホーム		飛翔ホーム	
保育士（チーフ）	小島 隆規	児童指導員（チーフ）	新沼 弘樹	児童指導員（チーフ）	嘉藤 護
保育士	伊藤 直樹	保育士	栗村 勇斗	児童指導員	吉田 秀毅
保育士	佐々木 歩	児童指導員	只野 大介	児童指導員	佐々木裕也
保育士	白木澤優香	特別指導員	鈴木 優作	児童指導員	四日市 楓
調理員	新沼利江子	調理員	武田喜久子	調理員兼児童指導員	小野 直美
つばさホーム（本園隣接）		地域分園型 GC さくらホーム		地域小規模児童養護施設若葉ホーム	
児童指導員（チーフ）	佐々木由香里	保育士（チーフ）	金野 聖	保育士（チーフ）	高橋久仁江
保育士	中野由美子	保育士	久保田 舞	保育士	藤倉 聖子
保育士	佃 実佳	保育士	藤 愛咲	調理員	平野さつき
児童指導員	畑山 成美	宿直専門員	田村 育子	宿直専門員	鎌田 律子
宿直専門員	葛西 修子	宿直専門員	泉田 澄子		

### 1. 大洋学園が指定を受けている付加事業

子育て支援短期利用事業 (平成5年度より実施)	ショートステイ : 平成30年度6件6名(延日数 25日) トワイライトステイ : 平成30年度4件4名(延日数 4日)
----------------------------	---

### 2. 視察・ボランティア・招待等

月	日	慰問・視察・奉仕	月	日	慰問・視察・奉仕
4	11	おはなしころりんボランティア	9	5	青雲荘、一関藤の園施設見学
5	6	ライオンズ農園田植え招待		8	ホースセラピー
	20	千厩国際ハウス昼食会		22	フランセ理容奉仕
	29	天理教草刈ボランティア作業	10	22	岩手県福祉総合相談センター施設見学
6	9	フランセ理容奉仕	11	7	更生保護女性の会奉仕作業
	13	大船渡市長杯運営委員会		9	県沿岸知的障害児施設組合議員視察研修
	18	北上民児協施設見学		14	大船渡市人権擁護委員施設見学
	21	三関地区福祉活動推進協議会施設見学		24	太平洋セメント交流会
	24	大船渡市長杯審判等ボランティア	12	1	大船渡ライオンズクラブ餅つき交流会
	25	和光学園施設見学		3	大船渡市婦人団体連絡協議会慰問
7	8	天洋丸招待		4	岩手県福祉総合相談センター施設見学
	20	鼓童太鼓演奏招待		13	気仙地区里親会 歳末演芸会ボランティア
	27	フランセ理容奉仕		15	西ロータリークラブレトロ列車招待
	28	気仙里親会さん夏休み全体行事差入れ		20	キャンプ座間サンタデリバリー
8	7	本町七夕引き招待		22	千厩国際ハウス招待
	8	本町カレー招待		23	岩手競馬騎手部会クリスマス招待
	8	釜石市施設見学	1	7	フランセ理容奉仕
	11	おはなしころりんボランティア	2	16	高城写真卒業記念写真撮影ボランティア
	15	大相撲陸前高田場所招待		18	気仙地区里親会卒業制作ボランティア
	25	アスパイアボランティアミニコンサート		23	気仙地区里親会 調理ボランティア
9	1	映画招待	3	16	連帯 東北・西南シンポジウム招待

### 3. 主な行事報告

月	日	行 事 名	日	行 事 名
4	1	ホーム発表	16	前期自立支援計画策定会議～19日
5	5	こいのぼり子どものつどい	10	猪川小学校修学旅行～11日
	11	気仙光陵支援学校との学洋懇談会	17	猪川小学校との学洋懇談会
	19	大船渡第一中学校運動会	26	猪川小学校運動会
	26	気仙光陵支援学校運動会	30	大船渡第一中学校との学洋懇談会
6	16	気仙地区中総体～17日	24	大船渡市長杯争奪児童福祉施設球技大会
7	1	ボランティアフェスティバル	14	岩手県中総体～15日
	28	夏行事キャラバン隊～30日		

8	7	本町七夕引き	26	石鳥谷ふれあいソフトボール大会
	27	災害訓練・職員召集		
9	2	バーベキュー会食	10	前期自立支援計画中間総括～13日
	15	気仙地区中総体新人戦～16日	15	海の星幼稚園運動会
	19	大船渡市小学校陸上記録会	23	BBS 球技大会
10	1	後期自立支援計画策定会議～3日	13	旭が丘学園との定期戦
11	1	オレンジリボンキャンペーン	24	太平洋セメント交流会
12	1	大船渡ライオンズクラブ餅つき	8	祝勝会・バイキング会食
	13	大洋学園歳末演芸会	15	西ロータリークリスマス会
1	2	大洋学園新年交賀会		
2	24	園内球技大会		
3	1	東高・高高・住高卒業式	4	自立支援計画年間総括～7日
	6	公立高校一般入試	13	大船渡第一中学校卒業式
	14	公立高校合格発表	14	気仙光陵支援学校卒業式
	15	海の星幼稚園卒園式	18	卒園生と職員との会食会
	19	猪川小学校卒業式	20	大洋学園送別会

※ 誕生会はホーム毎、安全点検は毎月実施。学年・PTA、スポ少・各部育成会、大会等は省略。

#### 4. 主な研修会・諸会議等

(全：全国児童養護施設協議会 東：東北ブロック児童養護施設協議会 岩：岩手県児童養護施設協議会 児：児童福祉施設協議会 県：岩手県 社：岩手県社会福祉協議会 児相：児童相談所 明：明治安田こころの健康財団 虹：子どもの虹情報研修センター 事：岩手県社会福祉事業団)

月	日	研修・諸会議等	参加者	月	日	研修・諸会議等	参加者
4	11	(岩)広報部主任会議(盛岡)	弘樹	11	12	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美
	17	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美	13		里親委託推進委員会(盛岡)	志田
	17	(岩)給食研究部主任会議(一関)	茜	19		(岩)広報部主任会議(盛岡)	弘樹
	19	(岩)事務福利厚生部主任会議(花巻)	裕也	27		施設心理担当職員勉強会(盛岡)	柿崎
5	1	(岩)幹事会(盛岡)	園長・補佐	12	4	里親支援勉強会(盛岡)	志田
	21	(児)専門委員会(盛岡)	由香里	7		(岩)幹事会(盛岡)	園長・補佐
	24	(東)総会研修会(盛岡)	園長	10		岩手県家庭の養護推進検討会(盛岡)	園長
6	11	(児)専門委員会(盛岡)	由香里	10		家庭支援専門相談員全県定例会(盛岡)	はるか・雅介
	12	(岩)給食研究部主任会議(一関)	茜	17		児童養護施設等基幹的職員研修(盛岡)～18日	高橋
	12	生と性全国秋季セミナー(東京)～14日	畑山・利江子	17		里親支援専門相談員(盛岡)	弘樹
	14	(東)児童養護施設研究協議会(福島)～15日	園補吉栗四	21		生と性全国秋季セミナー(東京)～8日	健一・中野
7	11	(全)新任施設長研修会～12日	園長	1	9	(岩)広報部主任会議(盛岡)	弘樹
	13	(岩)事務福利厚生部主任会議(花巻)	裕也	10		性教育研究学術大会(東京)～11日	弘樹
	14	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美	16		(虹)児童福祉施設指導者合同研修(横浜)～18日	嘉藤
8	1	里親支援専門相談員の全権打合せ会(盛岡)	補佐・志田	16		全国児童養護施設中堅職員研修(東京)～18日	由香里
	7	県立大学国際セミナー(盛岡)	補佐・志田	17		(全社)スーパービジョン研修(神奈川)～20日	里美・雄介

9	3	(児)職員研修会	久保田	17	里親支援勉強会(盛岡)	志田	
	13	(岩)給食研究部主任会議(一関)	茜	21	(全社)家庭支援専門相談員研修(東京)~22日	はるか	
	25	(岩)養護研究部主任鍵	補佐・里美	24	基幹的職員研修(盛岡)~25日	高橋	
10	4	(東)専門職研修会~5日(花巻)	補里雄柿志	2	5	(岩)全体研修会(花巻)~6日	園補あ藤畑
	9	(児相)児童養護施設・児童相談所交流研修会(一関)	雄・柿・は		9	全国児童養護問題研究会東日本研修会(仙台)~10日	雄介
	9	児童養護施設給食関係者研修会~10日(栃木)	茜		13	(児相)児童養護施設・児童相談所交流研修会(一関)	はるか・柿崎
	11	(岩)事務福利厚生部研修会~12日(青森)	裕・武・智		22	家庭支援専門相談員全県定例会(盛岡)	はるか・雄介
	16	全国児童養護施設長研究協議会~19日(札幌)	園長		25	児童相談所と施設心理研修会(盛岡)	柿崎
	30	(岩)給食研究部主任会議(一関)	茜	3	7	(岩)幹事会(花巻)	園長・補佐
11	2	(児)施設間交流研修会(盛岡)	由香里・舞		12	(虹)WEB研修(横浜)~14日	里美

〔園内諸会議・委員会〕

@職員連絡会議：情報共有・周知のため毎日13:30より開催。状況に応じケース会議に移行

@運営委員会：職員運営委員による運営の課題や問題を検討後、職員会議で決定。

@給食委員会：献立や衛生管理について検討後、職員会議で決定。

@SWOT分析委員会：学園の現在を分析し、将来のために必要なものを検討。

@チーフ会議：ユニットチーフで構成し月1回以上の開催。養育支援に関する情報の共有と協議。

@自立支援計画策定会議：子ども一人ひとりの自立支援計画を年2回検討。

@ヒヤリハット委員会：報告書や日常の中で気付いた事項の分析・改善。

@ケースカンファレンス：重篤ケースを対象に開催。

@五葉新聞編集委員会：学園新聞の編集・作成。

@園内研修：研修委員会を設置し、外部・内部講師プログラムや伝達研修を全職員対象に実施。

5. 実習生受け入れ状況

期	間	人数	依 頼 機 関	備 考
5/28~6/6		1名	仙台青葉学院短期大学	保育
5/28~6/8		2名	岩手県立大学	保育
5/28~6/28		1名	東北福祉大学	社福
6/11~6/20		1名	尚絅学院大学	保育
6/11~6/20		1名	仙台リゾート&スポーツ専門学校	保育
6/25~7/4		2名	東北福祉大学	保育
7/2~7/13		2名	岩手県立大学	保育
7/16~8/25		4名	修紅短期大学	保育
7/26~8/4		4名	修紅短期大学	保育
8/17~8/26		3名	修紅短期大学	保育
9/4~9/13		1名	修紅短期大学	保育
9/18~9/27		1名	修紅短期大学	保育
9/18~9/27		1名	盛岡医療福祉専門学校	保育
9/28~9/30		1名	東北福祉大学	社福事前実習
10/1~10/10		1名	仙台こども専門学校	保育
10/15~10/19		2名	盛岡大学	介護等体験

10/15～10/19	1名	宮城学院女子大学	介護等体験
11/5～11/14	2名	盛岡大学短期大学	保育
11/5～11/14	1名	仙台幼児保育専門学校	保育
11/26～11/30	1名	盛岡大学	介護等体験
12/3～12/12	2名	専修大学北上福祉教育専門学校	保育
2/4～2/13	3名	盛岡医療福祉専門学校	保育

## 6. 月間移動状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月首	34	34	34	33	33	33	33	33	35	35	35	35	407
初日入所													
初日退園													
初日在籍	34	34	34	33	33	33	33	33	35	35	39	35	407
中途入園									2				2
退園				1									1
月末	34	34	34	33	33	33	33	33	35	35	35	35	407
一時保護委託				1				3	5	1	2	4	16

## 7. 期末在園児の年齢・男女別状況

平成31年3月1日現在

	1・2歳児	未就学児	小学生							中学生				高校生他					合計		
			1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3	小計	1	2	3	4	他		小計	
男		1	1	3	2	1	1	1	9	3		2	5	2	2	1				5	15
女		1	2				1		3	2	1		3	3	2	3				8	10
計		2	3	3	2	1	2	1	12	5	1	2	8	5	4	4				13	35

## 8. 期末在園児の出身地別状況

平成31年3月1日現在

岩手県福祉総合相談センター		岩手県宮古児童相談所		岩手県一関児童相談所	
盛岡市	3	宮古市	3	大船渡市	5
久慈市	3	釜石市	4	陸前高田市	5
北上市	4	山田町	2	住田町	1
遠野市	1	岩泉町	1	奥州市	2
千厩町	1				
合計	12	合計	10	合計	13

## 9. 本年度3月退園生の進路状況

進路	在園高校進学	上級学校進学	高校卒就職
男子	2	0	1
女子	0	1	2
計	2	1	3

就職：東京都 一般企業  
東京都 一般企業  
遠野市 一般企業

進学：仙台総合ビジネス公務員専門学校

## 10. 生活の目安

☆未就学児（夕方3時以降は児童と同じ）

時間	活動内容	時間	活動内容
6:20	起床・掃除・食事準備・朝食・片付け	12:00	昼食準備・昼食・片付け
8:00	4~5歳児登園準備	14:00	4~5歳児帰園:幼稚園バス迎え
9:00	4~5歳児登園:幼稚園バスが迎え	15:00	おやつ・工作等
10:00	おやつ		

☆学童

平 日		休 日	
6:20	起床・掃除・食事準備・朝食・片付け	7:20	起床・掃除・食事準備・朝食・片付け
7:30	登校	12:00	昼食準備・昼食・片付け
12:00	昼食準備・昼食・片付け	17:00~	夕食準備・片付け・夕食・入浴
17:00~	夕食準備・片付け・夕食・入浴	21:00	就寝（小学生）
21:00	就寝（小学生）	22:00	就寝（中学・高校生）
22:00	就寝（中学・高校生）		

### 11. 各ホーム活動

#### (1) 光輝ホーム

今年の光輝ホームは、小学5年女児、小学3年男児、小学1年女児が2名、3歳児の男児、女児1名ずつの計6名でスタートした。生活時間は、幼児もいたが小学生とほぼ一緒のリズムで生活した為、時間を共有することが出来た。行事の際には、皆協力して取り組むことが出来た。1月から小学3年男児が一時保護で入ってきたが、皆仲良く賑やかに過ごした。ホーム内では、トラブルなく1年が過ぎてきた。小学生が増えたことで入浴する時間を早めた際には、小学生で話し合いを行った。順番を決めたがきちんと守り皆で協力することが出来ていた。言葉遣いが悪い際には、その都度、注意し意識させてきた。年度末では、言葉遣いが悪いと子ども間で、注意することが出来ていた。ホーム行事は、4月入学祝い、8月に班行事で盛岡ラウンドワン、9月には盛岡動物園、2月に北上で買い物、3月に分散会と定期的にホーム行事が出来た。

#### (2) 希望ホーム

今年の希望ホームは小学6年生が1名、中学1年生が2名、中学3年生が1名、高校1年生が1名、高校2年生が1名、高校3年生が1名の計7名でのスタートでした。中学校、高校への入学。そして受験、卒業や卒園と慌ただしい1年になりましたが、いつも皆で声を掛け合いながら頑張る事ができました。同じメンバーで1年間過ごすことができたので、子どもたちの仲も良く、いつでも明るく楽しいホームになったと思います。そして、皆無事に進級、卒業、卒園する事ができて良かったです。

#### (3) 飛翔ホーム

今年度の飛翔ホームは高校生2名、中学生2名、小学生2名の計6名でスタートしました。年度途中に小学2年生の子が入所となり計7名となりました。今年度を振り返ると、生活面では特に大きなトラブルはありませんでした。日々の生活で中高生が小学生の行動に対して不満が出てきたにはその度、ホーム会議や話し合いをした1年でした。歳末演芸会では全員揃っての練習がほとんどできなかったものの、本番には団結しまとまってホームの出し物ができました。どの子も自分の目標に向かい頑張った年



でした。3月には中学3年生の子は志望校に無事に合格する事ができました。

#### (4) つばさホーム

『お互いを尊重し、助け合って生活する』を重点目標にホーム運営を行ってきた。ホーム開始は、高校生3名の女子ホームでした。人数が少ない分、個々に関わる機会も多く手厚い支援が行えた。12月からは、高校生女兒2名が加わり5名となった。入所後まもなく歳末演芸会が行われた。慣れない環境の中で新規入所児童の2名とも努力を重ねた。また、他3名も学校や部活の合間に練習に励み、無事に終わることが出来た。演芸会練習に取り組んでいる最中にトラブルになることもあったが、都度、お互いに話を聞きながら対応した。その後も子どもたちがまとまるように努めてきたが、自己都合を押し通し、尊重し合うことは出来なかった。学校に関しては、進級が危ぶまれた児童もいたが全員進級、卒業することが出来た。班行事は、4月進学祝い、8月買い物外出、12月クリスマス外出、2月買い物外出、3月分散会を行った。また、誕生者がいる月はホームでの誕生会を行い、誕生日の前後で1対1の外出を行った。

#### (5) さくらホーム

今年のさくらホームは、小学生男児2名、高校生4名の6名でスタートしました。今年から、長谷堂地域に引っ越し、新たなホームで生活をしました。子どもたちもとても喜び、意気揚々とした雰囲気でも過ごしてきました。地域の方々がとても優しく迎えてくれ、地域や子ども会に溶け込むまでさほど時間も掛かりませんでした。小学生2名は、地域に遊びに出かけたり、友達を呼んで過ごしたりしました。高校生は、4名とも女子であった為、ホームで仲良く過ごしたり、友達と出かけたりとし過ごしました。また、今年度はホームから2名が措置解除となり、それぞれが、自分の進路に向かって頑張っている状況です。色々あった1年でしたが、明るく楽しいホームとなりました。ホーム行事は、4月入学、進級祝い、12月買い物外出、3月買い物外出、各児童誕生会、1対1の外出、3月分散会を実施した。

#### (6) 若葉ホーム

今年度の若葉ホームは、小学1年生、2年生、中学1年生2名、中学2年生の5名でスタートしました。小学生2名に手がかかる所で、中学生から自分達も見たいという気持ちが多くあり、対応に苦慮しました。中学生は、学習に真面目に取り組む成績を上げていきました。中1女兒のひとは、躓きがみられ途中から通塾をしています。生活面でも偏りがみられ支援に悩みケースカンファレンスを行って貰い園全体で支援を考えました。小学1年生は、里親との面会や帰省を実施、小学2年生は、引取りに向け支援をしていき3月に引取りとなりました。その後もFSWのアフターを受ける事となっています。それぞれの個性が際立ちまとまりのない様子もありましたが、その中でも引取りの児童に対しての思いやりの心が見られ温かい気持ちで今年度のホームを終わることが出来ました。

## 1.2. 被虐待児個別対応状況

### (1) 対象児童

今年度の対象児童数は、前・後期変わらず12名でした。

### (2) 実施方法

それぞれの目標に合わせて、月に1～2回程度程度の個別の時間を心がけて対応しました。ホームカバーの際の生活援助や相談室での学習援助の中で個別の時間を持ちました。昨年度からの取り組みを継続して今年度も現在の夢をコルクボードに表現する「夢の宝地図」の取り組みを行い、個別の対象児以外にも希望する子どもたちと今やりたいこと・将来の夢を話し合う機会をつくることができました。反省点は、高校生の面談の確保が十分に出来なかった点です。その分、定期的に話ができるようホームで日常会話をする機会を持ちました。

### (3) 定期的情報交換の機会

今年度もブロックごとのSV体制での取り組みが継続し、チーフ会議での情報共有以外にも担当するホーム会議に参加することができ、ケース会議が多く実施されたと感じています。また、各ブロックに専門職が関与することにより専門職間で連携して密な情報の共有が図れました。全職員が定期的に情報を共有して共通の認識でケアにあたることができるように、心理と今年度からはF SWにも加わってもらい共同でケースカンファレンスを実施し、よりよい支援のため話し合う機会となりました。来年度も継続して定期的なカンファレンスを行ってまいります。

### (4) その他

今年も対象児童以外の子の学習や面談の要望に応じることができよかったです。担当不在時のホームサポートも利用して、できるだけ多くの子どもとかかわるように心がけ対応しました。

## 1 3. 心理療法状況

対象児童数は15名（男児8名、女児7名）でした。対象児以外にも、全児童の成育歴・生活の様子の把握に努めました。子どもの成育歴を把握しておくことで、心理療法対象児童以外の子どものポイント支援にもスムーズに入ることができました。

心理療法・心理面接に関しては、被虐待体験・問題行動のある子どもを主な対象とし、定期的な心理面接を行いました。心理療法を実施する目的を子どもに理解できるように説明することを意識し、子どもと共通の目的をもって面接に取り組むことができました。一方で、十分な信頼関係の構築や子どもの状態の細やかな把握を怠ったため、子どもが面接を拒否したり、子どもとの関係が悪化したりすることがありました。今後は信頼関係の更なる構築と、子どもにとって負担の少ない形で面接に取り組めるようしていくことに課題が残ります。

心理検査は一時保護児童を含めて6ケース（WISC-IV、HTPPテスト、田中ビネーなど）を実施しました。子どもの能力把握や有効な援助方法を考えるのに役立てました。

担当、各専門職とコンサルテーションを行いました。各ホーム会議には必要に応じて出席し、普段の生活の中では職員室での日常会話でコンサルテーションを行うことを心掛けました。心理面接を行った後のフィードバックが疎かになることがあったため、コンサルテーションの時間を確保する必要性がありました。

関係機関（学校、児相など）との支援会議にも出席しました。主に、子どもの状態像の見立てと心理検査のフィードバックを行いました。

ケースカンファレンスに関しては、入所カンファレンスを2回、拡大カンファレンスを2回実施しています。様々な意見が出され、有意義なものとなったが、司会進行の技術が拙く、参加者の意見を十分に取り上げることができませんでした。次年度以降はカンファレンスの目的を明確にしつつ、参加者の意見を十分に吸い上げることができるようなカンファレンスを目指します。

## 1 4. 里親支援

現在、気仙地区里親は14組（震災前からの里親が4組、震災後の里親10組）となり、昨年に引き続き東日本大震災で親が被災し里親委託となった3組の里親家庭と震災に関わらない高齢里親家庭1組に特化した形での支援を行っています。また釜石地区の震災による2組の里親家庭への訪問支援も昨年同様行いました。支援の中心は訪問相談が多く、訪問相談に関しては年間実数85回行いました。相談の児相報告含め電話相談、日程調整等含めるとその倍の数になります。また今年は新たに気仙地区里親会員となった家庭が1組ありました。

里子の相談内容により児童家庭支援センター大洋 115 回来所の活用もあり心理職の協力を得ながら

支援してきました。その分、昨年度に比べ実績件数が大幅に増えました。

また、大船渡市や陸前高田市、住田町の要保護児童対策地域協議会や子ども支援会議などに出席し、各関係機関と連携しています。その他にも、岩手県里親会主催の会議、研修等への参加、年4回行われる里親サロンにもほぼ参加し、その中で里親の方々や関係機関の方々と交流や情報交換もできました。さらに、今年は全児童養護施設、乳児院の里親支援専門相談員が集まり各施設の活動の様子を確認したり、スキルアップ向上の為に研修をスタートさせる事ができました。3年前から試み始めた毎月の里親定例会議では児童相談所、学園里親担当、里親の方々と集まり、里親の啓発・啓蒙活動、ボランティア活動について話し合いを重ねております。4年目となる里親ボランティア活動では学園行事（夏のキャラバン陣中見舞い、歳末演芸会等）で里親の皆さんに子供達のお世話をして頂きました。また、今年も里親さんに講師をお願いし、調理実習やハーバリウム制作の体験を通して卒園生からの卒業記念品を作ることができました。

里親の皆さんと関わりを持つ中で、やっと本音を吐露できるようになってきた里親さんが増えました。いかに継続した繋がり、関わりが大切であるかが年を重ねる毎に痛感しているところです。

また、今後の課題としては震災が原因で里親となられた方々の高齢化が進んでいることから訪問や電話の回数を増やしたり、市保健師の協力を得ながら健康観察をして頂くなど丁寧な訪問を継続していく必要があると感じています。さらには震災から8年が経ち、里子のみなさんにも進路選択、思春期と多感でデリケートな問題を抱える時期が訪れるており、関係機関、里親子とのさらなる密なつながりの必要性、大切さを感じているところです。

## 15. 自治会及び部活動

### (1) 自治会

今年度の自治会活動は、自治総会を中心に行いました。4月の総会では、権利ノートの読み合わせを行い、その後各ホームで内容について話し合う機会を作りました。また、自治会年間目標についても話し合い、正しいことばづかい、物を大切にする、自分のことは自分です～使ったものは片付ける～の3点が継続で新たに、誰に対しても感謝の気持ちを忘れない、が追加になりました。定例総会では、善行賞が贈られ、3年間部活を頑張った子、率先して草取りをしてくれた子、行事の中心となった高校3年生全員に贈られました。リーダー会議は2回行われ、1回目はリーダー会議の意義の確認と、議長の選出。2回目は歳末演芸会の取組みとして実施しました。学園行事を自分たちの手で作りあげること、普段お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを込めて行うことを目的として行いました。

### (2) 野球部

今年の野球部は部員が10名しかいませんでした。そのため、一人欠けると全員試合に出場して頑張りました。野球が好きな子が多く、練習がない時も自分たちで自主練習することも多かったです。キャプテンの2人を中心に不慣れなポジションでも一生懸命頑張り、積極的にやったことがないポジションにも挑戦しました。その結果、市長杯は初戦で敗退しましたが、BBS球技大会では優勝する事ができました。あまり多くは練習できず、部員数も少なくとも恵まれた環境ではありませんでしたが、それぞれが声を掛け合いながら皆で考え、協力して頑張る事ができ、チームとしてとても成長できた1年だったと思います。

### (3) 卓球部

今年度の卓球部の活動は、大船渡市長杯、BBS球技大会の2大会に参加しています。高校生が多く平日の練習では参加人数が少なかった為、参加できる児童を中心に大会に向け練習を行ってきました。外部コーチも来て指導して下さり、内容が濃い練習が出来ました。6月に行われた大船渡市長杯では団体

戦、中高校生を中心とした2チームで望みました。2チームとも残念ながら予選リーグを突破する事が出来ませんでした。個人戦では高校2年生の子が第3位に入賞することが出来ました。

9月に行われたBBS球技大会では団体戦2チームで望み、Aチームが予選リーグを突破し、決勝トーナメントへいき昨年に引き続き見事、優勝する事ができ2連覇を達成する事が出来ました。個人戦は中学生の部では優勝することが出来ました。高校生の部でも優勝、準優勝、第3位と上位を独占しました。

今年度を振り返り、卓球を通して子ども達が成長できたのは、関係者やボランティアの方々の尽力のおかげであることを改めて感じました。たくさんの支援・協力のもとに活動が出来ているということを子ども達に伝えながら、感謝の気持ちを育み成長を促しながら来年度も活動していきたいと思っています。

## 16. 地域交流活動

今年度も上・下富岡・長谷堂の行事等に招待や支援を受け、楽しく参加させていただき、学校や施設で体験できない多くの事を体験する事が出来ました。今年度は地区の運動会や悪魔祓いなどに参加し地域の人達と沢山、交流が持て子ども達はとても貴重な経験が出来ました。悪魔祓いなどでは、子ども達の為に事前に有志の方々から練習の機会を設けてもらい、やる意義について話をしてもらい、当日はきちんと出来ました。それ以外にわざわざ学園まで足を運んでいただいた方々も多く、職員児童一同本当に感謝しております。

各学校行事は、各PTA行事、各部活動の会合、父母会への参加及び協力、各スポーツ少年団への協力等できることは引き続き行っています。小中学校と光陵支援学校とは懇談会を例年通り行う事ができ、お互いの理解も深まっています。今年度、ボランティア忘年会も継続して実施する事が出来き、今年度は21名と大勢の人々が参加して下さり盛大に行う事ができ、交流を深める事が出来ました。今年度初めての試みで、地域の指導員さん2名をよんでの自転車教室ができ、色々な事を学べて良かったです。これからの課題はボランティアの開拓もですが、地域とのより根強い関係性の構築が必要であると感じました。

来年度もご支援いただいた方々への感謝を子ども達と共有しながら、地域活動には積極的に参加し、地域の方々にも数多く足を運んでいただける施設となり、地域の中にある大洋学園として子育てが出来ればと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。

## 17. 保健衛生

### (1) 通院状況

学校検診を元に小児科、眼科、耳鼻科、歯科通院を行いました。子どもの健康状態に応じて皮膚科、整形外科などにも通院しました。精神科定期通院の子どももいました。今年度は子ども(10人)も職員(5人)もインフルエンザに罹患しました。12月から3月まで拡大することはありませんでしたが常に誰かが罹患している状況がありました。

小児科	歯科	皮膚科	精神科	内科	外科
326	52	24	8	11	1
眼科	耳鼻科	整形外科	その他	合計	
23	6	7	15	473	

### (2) 健康診断と予防接種

健康診断については、園児は夏休み、冬休みを利用して年2回嘱託医で実施しました。職員は1回目は嘱託医で行い、2回目は予防医学協会で行いました。予防接種については、インフルエンザの予防接

種を園児は全員実施し、職員は嘱託医とかかりつけ医で行いました。その他にも、定期接種の園児には随時、任意接種はかかりつけ医から必要性を伝えられた場合に実施しました。身長、体重測定は、2か月に1度実施しました。

### (3) その他

園内美化作業については、職員と子どもとの一緒活動はお盆、正月前に実施しました。今年度は床の汚れ落としは実施できなかったため、来年度は作業として組み込んで実施したいと考えています。園内の消毒作業は、平日は児童不在の昼間に出勤職員で分担して行いました。休日については、宿直さんの協力を得て夜間に実施しました。今年度も、衛生管理要領を元に、服薬管理、衛生管理、バイタルチェックを行いました。

## 18. 被服の支給

昨年同様、中学生2万円、高校生2万5千円の個人予算のなかで、自己選択して購入し、所有感や経済観念を養ってきました。市内の洋服店だけではなく、インターネットから服を購入した。幼児、小学生については、必要なものを担当と検討し、一緒に買いに行き、自己選択ができるように支援した。また、今年度も多数の寄付物品を頂き、寝具類、タオル、衣類を子ども達の為に活用させて頂きました。例年よりも寄付の量が多かったため、日頃から被服の在庫確認を行いながら整頓を行いました。卒園生や新規入所児童の寝具は、寄付で頂いた寝具でまかなうことが出来ました。次年度もリネンの在庫確認、整理を継続して行っていききたいと思います。

## 19. 給食

学園での食事は、幼児期から発達段階に応じて食の体験を積み重ねていくうえでとても大事になり、毎日の献立作成にあたっては発育、発達状況に応じ必要な栄養量をみたくものでなければなりません。子どもの食に関する嗜好や体験が広がり深まるように、また季節感も感じられるように多様な食品や献立の組み合わせにも配慮してきました。児童養護施設で暮らす子どもの多くは家庭での適切な食生活が営まれることなく入所してくることが多く、ユニット化により家庭的で子ども達と一緒に食事の買い物から調理、片付までする機会が増え、食事が出来上がるまでの過程を自然と体験することができるようになりました。子ども達の要望を把握し、献立に多く取り入れながら、安心して子ども達が食事出来るように実施してきました。

岩手県児童養護施設協議会給食研究部では、今年度職員向けの食事マニュアル作成を行いました。県内の児童養護施設も大舎制からユニットに移行してきているため給食職員が食事を作り提供するのではなく、児童指導員や保育士も一緒にご飯作りをするようになっていきます。そのため、子ども達に安心・安全なごはんを提供するための冊子になっています。食中毒予防の6つのポイントを中心にわかりやすくまとめましたので、今後の食事作りの中で活用していきたいと思っています。

## 20. 苦情解決状況

今年度苦情受付箱「みんなの声」を通じた苦情の申し出は1件ありました。また要望は3件ありました。ホールに遊び道具を増やして欲しい、ホーム異動の希望、ホームの子どもたちへの苦情でした。ホールに遊び道具を増やしてほしいという件については、現在自治会費を集めていないこともあり、共有で使用する遊び道具については、寄附でいただいたものなどを活用することができるが、以前片づけがされていない状況もありました。そのため、準備するなら約束をきめて設置する必要があること、各ホームに教養娯楽費という予算があるため、当面はその予算で購入してほしいことを伝えました。また、ホームの異動についての要望については、子どもや職員の関係性もあるため、要望については取り入れて編成を考えるが、全ての要望に応えることが難しいこともあると伝えました。また、ホーム内の子ども

もに対する苦情については、原因となる子どもの異動もあったため、現在の状況について再度確認することを伝えてました。今年度はみんなの声に入った件数は少なく、各ホームや、対職員の間で解決に至ったケースもあったように思われます。

## 21. 防災状況

児童養護施設の防災訓練は毎月実施が義務付けられており、昼間編成、夜間編成で実施した。職員中心の活動である昼間訓練5回、職員が少ない時間帯で子どもを中心とした活動となる夜間訓練5回、職員召集も並行した早朝訓練1回、地震避難訓練1回実施した。地域小規模児童養護施設、小規模グループケアでは昼間訓練、夜間訓練を各2回実施しました。

その他に大地震や津波の発生等の緊急時に備えた避難場所について各学校と大洋学園で統一を図り、園児が混乱なく避難できるよう努めました。定期的にホームごとに確認をすることで、園児への周知を徹底しました。高校生は携帯電話の所持をしているため、大洋学園の電話番号はもちろんのこと、学園内衛星電話の番号を登録することで緊急時の連絡先の統一を図りました。

また、危険箇所や修繕の必要のある箇所の確認を行うため、毎月学園内外の設備点検を実施しました。即応し改善を行うと共に、ヒヤリハット活動も継続し児童、職員の安全な環境確保に努めました。

## 22. まとめ

昨年度は暫定定員38名（本体）、また今年度は、暫定定員39名（本体）のスタートとなりました。さらに、今年度の入所状況から来年度は更に36名になる見込みから、定員変更を協議し、平成31年4月より定員を40名から35名（地域小規模児童養護施設定員を合わせると41名）に減らすこととなります。また、平成30年11月から31年3月までの5か月間で一時保護とショートステイ利用児童は、延べ19名でありました。入所児童の減少がある反面、緊急に一時保護やショートステイで受入しなければならないケースが増加している現状が今後の大きな課題となりました。その中では、施設の小規模化によって、一時保護の要請があっても、性別や年齢的な理由から受入が困難な場合もあり、早急な対応策が必要であると思われます。ただ年度末の3月に入ってから、入所の問い合わせが急増し、最終的には1か月間に8名の入所と3名の一時保護を受け入れとなりました。これも今までに経験のない状況であります。

さて、今年度子どもたちは男子21名・女子14名の合計35名でスタートしましたが、そのうち中高生が22名ということで近年続いている児童の高年齢化は継続という状況でした。特にも高校3年生が4名です。3名は就職を希望し、遠くは東京、近くは遠野市内と様々ではありますが、共通しているのは一人ひとりが自らの第1希望を達成したということです。また、専門学校へ進学したのは1名でした。将来の希望と夢を叶えるためさらにスキルアップを目指しての進学です。いずれにしても、卒園生の旅立ちを一緒に過ごしてきた子どもたちと職員のみんなで温かい声援の中で出発となりました。そして中3の2名も第1志望の高校へ合格し、学園から進学することが決まっております。

総じて、今年度も子どもたちに大きな事故や怪我もなく過ごせましたことは、地域の皆様や各学校の先生方、そして関係機関の皆様のお蔭様でした。本当にありがとうございます。